

No. 002

ブータン・モンゴル
体育分野青年海外協力隊員
巡回指導調査報告書

平成 14 年 4 月

JICA LIBRARY



J1170016(8)

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

青海 2

JR

02-06

JICA

102

17

JV2

BRARY

ブータン・モンゴル
体育分野青年海外協力隊員
巡回指導調査報告書

平成 14 年 4 月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局



1170016【8】

はじめに

青年海外協力隊事業は発足以来 37 年目を迎え、2002 年 3 月末までの隊員派遣数は累計で約 22,600 名、派遣実績のある国は 72 カ国に及んでいます。

今回の調査対象国であるブータンに対しては、1988 年の派遣開始以来 174 名の隊員を派遣してきました。体育分野隊員はそのうち 29 名と、同国における中心職種の一つとなっているほか、ここ数年は小学校や教員養成校への派遣が開始されるなど、ニーズも多様になりつつあります。

またモンゴルへの派遣は 1992 年に開始され、今年は派遣 10 周年の節目にあたります。これまで累計 129 名、体育分野に関しては 16 名の隊員を派遣してきました。同分野隊員の活動に対する先方政府の評価は大変高く、同分野への派遣要請は、職種や地域を問わず今後さらに増えていく見込みです。

このような背景を踏まえ、当事務局では、これら両国における体育分野隊員に対し専門的見地から助言を行うとともに、今後も同分野の隊員をより効果的に派遣するための提言を行うことを目的として、2001 年 11 月 16 日から 12 月 1 日までの 16 日間に亘り、ブータン及びモンゴルへ調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団による調査結果を取り纏めたものであり、両国における今後の体育分野隊員の派遣方針を検討するにあたり、関係者に広く活用されることを期待しています。

最後に、この調査団を派遣するにあたり、ご協力いただきました国内外の関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも格別のご支援をお願いする次第です。

2002 年 4 月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局
事務局長 金子 洋三



ブータン
ランジュン小・中学校の体育授業風景。
宮沢隊員（13/1、体育）の配属先。



ブータン
ペマのコミュニティー
ースクールの子ども
たち。向畑隊員
（12/1、体育）の特
別授業で「大きな栗
の木の下で」を実施
している。



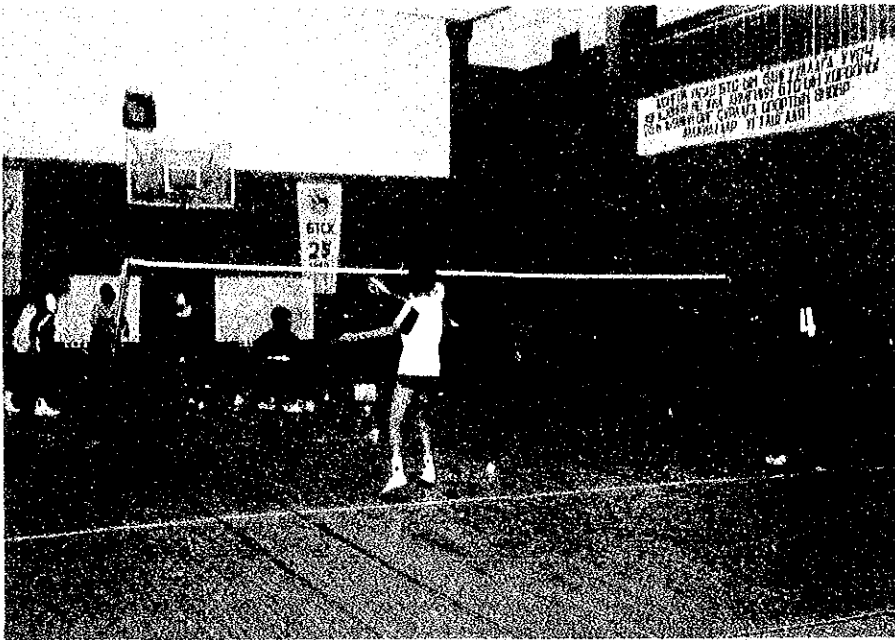
ブータン
国立教員養成大学
（向畑隊員配属先）
の体育専攻学生と、
ブータンの体育分野
隊員たち。



ブータン
国立教員養成大学にて。青山団長の指導による組体操のモデル授業風景。



ブータン
ランジュン高等学校にて。同上。



モンゴル
 オルホン県スポーツ
 委員会のバドミント
 ン練習風景。亀山隊
 員（12/2、バドミント
 ンの配属先。



モンゴル
 エルデネット第5中
 学にて。写真右側よ
 り順に体育主任、藤
 原隊員（家政）、校
 長、青山団長、体育
 教師、小熊調整員。



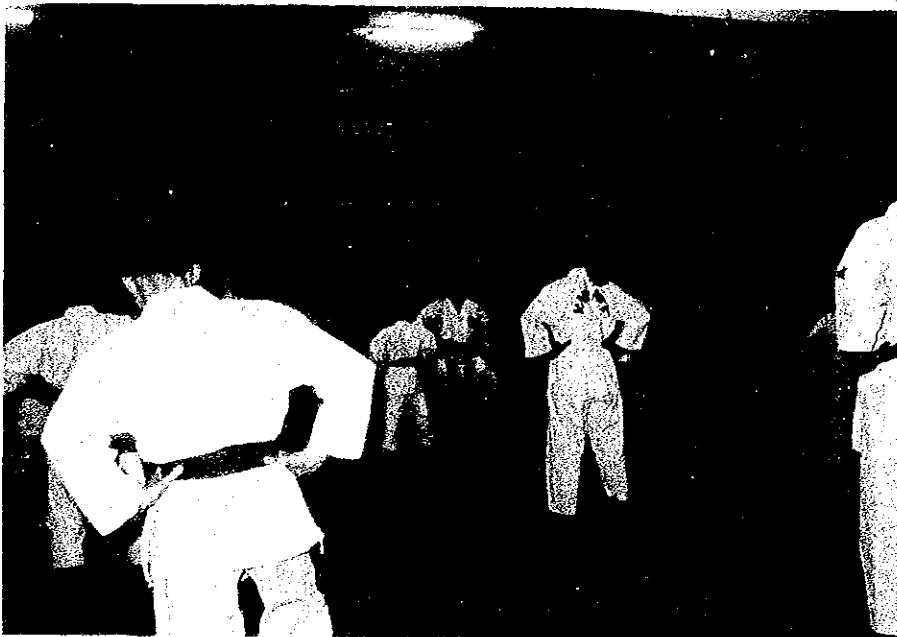
モンゴル
 国立教育大学付属体
 育大学における練習
 風景。久保隊員
 （11/3、バスケットホ
 ールの配属先。



モンゴル
横綱大学における柔道の授業風景。森本隊員（11/2、柔道）の配属先。



モンゴル
合気道協会配属の川上隊員（写真右、11/3、合気道）。カウンターパートとともに活動を行っている。



モンゴル
空手道連盟配属の大槻隊員（写真中央、11/2、空手道）。8-20才の男女が熱心に練習に励んでいた。

目次

序文
写真

| | | |
|-----|-------------|----|
| 第1章 | 調査の概要 | 1 |
| 1-1 | 調査団派遣の経緯 | 1 |
| 1-2 | 調査団の構成 | 2 |
| 1-3 | 調査日程 | 2 |
| 1-4 | 主要面談者 | 3 |
| 第2章 | 調査結果（ブータン） | 5 |
| 2-1 | 巡回指導調査結果 | 5 |
| 2-2 | 体育分野の現況と問題点 | 8 |
| 2-3 | ボランティア派遣計画 | 9 |
| 第3章 | 調査結果（モンゴル） | 10 |
| 3-1 | 巡回指導調査結果 | 10 |
| 3-2 | 体育分野の現況と問題点 | 12 |
| 3-3 | ボランティア派遣計画 | 13 |

巻末資料

1. 隊員配置図（ブータン、平成13年11月1日現在）
2. 隊員配置図（モンゴル、平成13年9月1日現在）
3. 団長作成資料（初等教育課程における体育科教育の必要性、ほか）

第1章 調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯

(1) ブータン

ブータンへの隊員派遣は 1988 年から開始され、現在までに 160 名以上の隊員が派遣されている。体育隊員は、5 年度 3 次隊（1994 年）から継続的に派遣されており、現在は派遣中隊員 30 名中、体育隊員は 6 名であり、ブータンにおける中心職種の一つとなっている。

これまでは主に高校への体育隊員の派遣が行われてきたが、2000 年度からは小学校で体育が正規科目として導入され、派遣中隊員からも小学校への体育隊員派遣について要望が出されている。また、教員養成校に対しても 12 年度 1 次隊から派遣が開始された。

本調査団ではブータン政府に対し小学校への体育隊員派遣について提言を行うとともに、体育隊員が活動している東部地域で模擬授業を実施し、隊員及び現地人体育教師への助言・指導を行い、同時に今後の体育分野の隊員派遣計画を策定する。

また、同国で活動中の体育隊員の現状・問題点を調査するとともに、模擬授業を実施しブ国教育省にも体育教育に関する理解を一層深めるよう働きかける。

(2) モンゴル

モンゴルへの隊員派遣は 1992 年 4 月に開始され、2001 年 10 月 1 日現在までに 126 名の隊員が派遣されている。当初は同国の市場経済移行を背景に技術分野の隊員が多く派遣されたが、90 年代後半以降はこれに替わってスポーツ分野、教育分野への派遣が増加しつつある。スポーツ隊員に関しては、1994 年のバレーボール隊員を皮切りに、これまで計 16 名が派遣されている。

派遣中隊員 45 名（10 月 1 日現在）のうち、スポーツ隊員は 8 名（約 18%）であり割合としては多くはないが、確かな技術力に根ざした活動に対する配属先の評価は高く、同分野への派遣要請は引き続き増えていくものと見込まれる。また、2001 年 2 月の巡回指導調査では、都市部と地方の社会的経済的格差の拡大に鑑み、今後は地方への隊員派遣にも注力していくことが確認されていることから、特に地方における同分野の要請は積極的に開拓していきたい考えである。

なお同国では、3 名のシニア海外ボランティア（以下、SV）が文化芸術分野と商業分野で現在活動中であるが、先方からはスポーツ分野への派遣にかかる要望も聞かれていることから、SV 要請案件も併せて開拓していく方針である。

1-2 調査団の構成

- (1) 総括／技術指導 青山 敏彦 青年海外協力隊事務局 技術顧問
 (2) 派遣計画 阿部 俊哉 同 シニア海外ボランティア第一課 職員

1-3 調査日程

| 月日 | 調査工程 | 宿泊地 |
|--------------|--|---------|
| 11/16 (金) | 10:30 パロ到着、ティンプーへ移動 教育局表敬 JICA ブータン事務所打ち合わせ | ティンプー |
| 11/17 (土) | ティンプー→ジャカール (途中、トンサで清水隊員ピックアップ) | ジャカール |
| 11/18 (日) | ジャカール→タシガン (途中、ゲルポシンで石山隊員ピックアップ) | タシガン |
| 11/19 (月) | ランジュン高校にて宮沢隊員の活動視察及び青山先生よりレクチャー (実技講習) | タシガン |
| 11/20 (火) | カリン高校にて長谷川隊員の活動視察及び青山先生よりレクチャー (実技講習) | タシガン |
| 11/21 (水) | モンガル→ジャカール (途中、ゲルポシン高校視察) | ジャカール |
| 11/22 (木) | ジャカール→ティンプー (途中、バジヨタン高校視察) | ティンプー |
| 11/23 (金) | ティンプー→パロ、NIE 視察 | パロ |
| 11/24 (土) | パロ→バンコク | バンコク |
| 11/25 (日) | バンコク (01:40) =CA980= (06:55) 北京 | 北京 |
| 11/26 (月) | JICA 中国事務所打ち合わせ 北京 (14:30) =CA980= (16:40) ウランバートル | ウランバートル |
| 11/27 (火) | ウランバートル→エルデネット オルホン県スポーツ委員会訪問 亀山隊員 (11/2、バドミントン) 活動現場訪問 | エルデネット |
| 11/28 (水) | 松村隊員 (11/3、バレーボール) 活動現場訪問 第5中学訪問 エルデネット→ウランバートル | ウランバートル |
| 11/29 (木) | 日本大使館表敬 久保隊員 (11/3、バスケットボール) 活動現場訪問 森本隊員 (11/2、柔道) 活動現場訪問 川上隊員 (11/3、合気道) 活動現場訪問 大槻隊員 (11/2、空手) 活動現場訪問 | ウランバートル |

| | | |
|--------------|--|----|
| 11/30 (金) | JICA 事務所報告 ウランバートル (12:30) =CA902= (14:20) 北京 | 北京 |
| 12/1 (土) | 北京 (15:00) =JL782= (19:05) 成田 | - |

1-4 主要面談者

(1) ブータン

人事委員会

Dr.ジグミ シンゲ 人事委員会代表

保健教育省教育局

Mr.ペマ テインレー 教育局局長

タシガン県教育委員会

Mr.ソナム ツェリン 会長

[ワークショップ1]

於：ランジュン高校

ランジュン高校 校長 Mr.ツェリン タシ

ランジュン小学校 校長 Ms.ウゲン ツォモ

ジョエンカル小学校 校長 Mr.ペマ ツェリン

フォンメイ小学校 教諭 Mr.S.B.タマン

ランジュン小学校 教諭 Mr.チョェニン ドルジ

ビドゥン小学校 教諭 Mr.ソナム トプゲイ

パカリン小学校 校長 Mr.ドルジ ツェリン

ラディ小・中学校 教諭 Mr.B.K.ビスタ

[ワークショップ2]

於：ジグミシェラプリン高校

同校 校長 Mr.ドルジ ツェリン

同校 教諭 Mr.プラカッシュ プラダン

同校 教諭 Mr.レンドップ

JICA ブータン駐在員事務所

森 靖之 所長
菊池 多絵 調整員
野々部 誠 調整員

(2) モンゴル

オルホン県スポーツ委員会

ゾレブドルジ スポーツ委員会副会長
ゲレルエルデネ 亀山隊員カウンターパート
ホスパイル バレーボール協会会長
ビャンバドルジ バレーボール協会副会長
バヤルマグナイ バレーボール協会会員（松村隊員カウンターパート）

第5中学校

ドンドル 校長
ジャダンバ 体育科教師

国立教育大学附属体育大学

ダシデルゲル 体育学科長（久保隊員カウンターパート）

横綱大学

バットエルデネ 学長、兼 柔道連盟会長

合気道協会

アルタンバガナ 川上隊員カウンターパート

日本大使館

藤本 洋 二等書記官

JICA モンゴル事務所

松本 賢二 所長
小熊 誠 調整員
荒井 順一 調整員
アンフツェツェグ 所員

第2章 調査結果（ブータン）

2-1 巡回指導調査結果

●11月16日(金)

10:30 頃 ブータン、パロ空港到着。

菊池調整員、小田、長尾隊員の出迎えを受け向畑隊員を訪ねた後、3
隊員と共にティンプーへ向かう。

15:00 表敬訪問 保健教育省 教育局局長ペマ・テンリー氏
体育隊員の受入機関である保健教育省を訪問した。

- ・ 隊員受け入れは従来の高等学校より小・中学校へ切り換えたい。
- ・ シニア海外ボランティア（以下 SV）については、NIE（National Institute of Education：国立教員養成学校）からの派遣要請あり。
- ・ 宮沢隊員の配属先変更の件。
- ・ 今回の訪ブに関しての意見交換。

16:30 事務所訪問

- ・ 日程打ち合わせ
- ・ 森所長より現況の説明を受ける。

●11月17日(土) 移動日 ティンプー ～ ジャガール

菊池調整員、向畑、小田、長尾隊員同行。途中トンサにて清水隊員合
流。

車中隊員の活動状況を聴取する。

●11月18日(日) 移動日 ジャガール ～ タシガン

菊池調整員、向畑、小田、長尾、清水隊員同行。途中ゲルポシン高校
を訪ね、石山隊員合流。

●11月19日(月)

9:30 表敬訪問 タシガン地区教育委員長シンゲ・ナムゲル氏を訪ねたが会
議中の為面会できず。

10:30 ランジュン小、中学校にて宮沢隊員の体育授業参観。

- 11:10~11:30 近隣の小、中学校より参加した12名の体育教師と体育授業の運営や指導法について検討会を持ち、宮沢隊員の授業を基に活発な意見交換を行った。種々の運動や体育の年齢別目標を知りたいとの要望があった。
- 14:20 ランジュン高等学校に2コマモデル授業を展開。組んで運動する内容を中心に「試してみよう」を呼びかけにして実施し、午前中の問題提起に対応する形を取った。
終了後再び意見交換を行い、今後できるだけ地域毎に研修会を催す事ができればとの結論に達した。隊員活動も赴任校だけに止まらず、そのつなぎ役も担うことができると考えた。
- 19:00 タシガン地区教育長、同次長、参加している隊員7名が菊地調査員の計らいで夕食会を持つ事ができ、地方の立場からの隊員活動について意見を聴取した。統じて感謝しているとの意見であった。加えて地区では地区立の小学校を増設しており、小さな小学校の教師配属に頭を痛めているとの現況報告もあった。

●11月20日(火) 早朝タシガン出発、カリンに向かう。

途中ペマ地区立小学校見学。土地、建物は地区が所有し、教師、教育内容は国が責任を持っている小さな60名の複式学校で5才から~12才までの子どもが通っている。その学校の計らいで6年生の体育授業を参観の後、15分程一緒に体操をした。グラウンドは20M×30Mくらいの広さで急傾斜地。この地での体育の在り方を隊員と共に認識した。そして昨夜の教育委員長の話を実態として理解できた。

- 14:00 カリンのジグミシエルプリン高等学校にて長谷川隊員の体育授業を参観。エアロビック運動を中心に展開。赴任3ヶ月にもかかわらず生徒とよく解け合っており、今後に期待が持てた。
続いて組み運動を中心に隊員と共にモデル授業を展開した。午後3時過ぎると、帰路の関係で他校からの参加者がなく、同校関係者のみの参加となったのは残念であったが、校長はじめ体育関係者は熱心に参観し、授業後の意見交換も活発に行う事ができた。この学校では全校生の80%近くが寮生活をしており、体育授業と共に寮生活におけるスポーツ活動の運営についても深い関心を持っているとの事であった。

●11月21日(水) 移動日 タシガン ~ ジャガール

菊地調整員、向畑、小田、長尾、石山、清水、宮沢隊員同行。
ゲルポシンで石山隊員下車。

●11月22日(木) 移動日 ジャガール ～ ティンプー

菊地調整員、向畑、小田、長尾、清水、宮沢隊員同行。
トンサで清水隊員下車。

18:00 ティンプー着

19:00 SV 受入機関、ブータン駐在員事務所、ブータン国隊員及び SV に
よる夕食会に参加。関係者と今回の視察について懇談。

●11月23日(金)

9:30 人事院に視察報告。(Dr.シンガイ氏)

人事院は対ブータン経済協力のうち、研修員受入、個別専門家派遣、
JOCV、SV 等、人的協力に係る窓口機関である。

- ・ JOCV 隊員の配属先について (現在の高等学校から小・中学校へ
配属先がシフトしつつあることについての確認)
- ・ 地方の小規模学校への配属について
- ・ 学校体育から生涯学習への広がりへの展望について

11:00 事務所報告。

森所長へ行動報告と人事院での諸内容を含めて報告。

11:30 ティンプー～パロに移動

13:30 国立教員養成大学体育専攻学生(1年生)の授業参加。

向畑隊員と共同授業を行い体育の基本的な授業展開を提示。

*教育局では SV の要請もあるが、大学当局は何をどのように向上させる
のかが理解されていない様子であり、位置付けを検討する必要がある
ろう。

19:00 パロにて菊地調整員、向畑、小田、長尾、宮沢隊員、それに UNV の池
田氏と共に反省会を開催。

- ・ 全国数カ所を定め、全員で継続的に講習会を開催する事により現
地の教師に広く体育教材を伝達できて良いと考える。
- ・ 赴任して自分の領域で止まっていたが、各関係者の交流が持た
たので活動の場を広げていきたい。
- ・ 地方での学校の持つ問題点も少し見えてきた。その上に立って自
らの展開を考えたい。

2-2 体育分野の現況と問題点

今回のブータン視察のねらいは、体育教師として赴任している隊員の支援としてブータン東部地区でワークショップの開催に参加する事と共に 1993 年から始められ今日まで継続されている中等教育現場(現地では高等教育として称している)での支援活動の実態、加えて今後初等教育(小学校)の体育教育への要請変更に対応すべき視察であった。そこでこの二点について列挙する。

(1) 隊員の活動支援

体育隊員はブータン国全土に広がって活動を展開しているが、本調査では東部タシガン地区の体育教育の向上を目指し、ワークショップを開催する事が主なる支援であった。そこで、ランジュンの小学校、中・高等学校、それにカリン高等学校の三カ所にてワークショップを開催した。参加者は現地の校長、体育科担当教師(小、中、高)等合わせて約 30 名(進学の国家試験中の為参加者が少なかった)であり、モデル授業と研究討論会を行った。その結果、次の検討内容と要望が提起された。

- ① 体育授業を組み立てるには何を柱として考え、どのように系統的に進めたら良いのか?(別紙の参考資料を基に検討した。)
- ② 子供達が興味を持ち、活発的な授業展開ができる多くの教材が欲しい。
(このようなワークショップが地方でも多く行われて相互に意見交換ができると良い。また、隊員活動は大いに役立っている。)
- ③ 施設、用具が十分でない場での体育授業について。
(遊び、簡易ゲーム、民族舞踊等の活用、さらに基本運動、体力測定等をも加え、体育の必要性を理解する授業を考える。)
- ④ 服装と体育授業の在り方。
(民族衣装での授業では運動の制約と安全性が問題となりかなりの議論がなされたが現状では教師の配慮の下。③の教材を基に展開する方向で納められた)
- ⑤ その他として保健衛生、学校行事についても論議された。

大きく以上 5 点を中心に長時間熱心なワークショップが催され、双方にとって有意義なものであった。

更に、パロの国立教員養成学校で体育専攻学生に対し、教材研究のモデル授業を実施。普通授業として実施した為、討論の時間を持つ事ができなかったが、今後に期待が持てる授業であった。

(2) 体育隊員受入担当である人事局及び保健教育省は、今後初等教育機関を中心に受入を進めて行きたいとの要望を示しており、具体的には小学校の体育担当教員、それに

教員養成校への配属を希望している。

- ① 小学校体育担当教員は、従来行ってきた高等学校教員と同じように体育授業、放課後のスポーツ活動に加え、地域の学校への巡回指導等が求められている。
- ② 将来の展望としては、地方(県)の教育委員会に赴き、現在拡充されつつある生徒数 100 人以下の複式学級校であるコミュニティスクールの教員不足を補うと共に、各地方に適したカリキュラムの支援教材研究等、体育教育向上の協力を行う人材も求められてくる。
- ③ 体育教員養成校については数年前から要望が出ており、現在派遣中の向畑隊員が実績を納めつつある。どのような活動が有効であるかを現状を踏まえながら検討し、必要に応じてSV 派遣も視野に入れ、支援を継続すべき重要な場である。
- ④ 体育隊員の派遣開始から 10 年が経過している今日、チーム派遣や SV との組み合わせ等より効果的な派遣形態を模索しつつ、ブータンの初等教育向上を支援すべきであろう。

2-3 ボランティア派遣計画

ブータンは体育教育をとおして、スポーツの振興のみならず道徳教育を進めている。体育は教科として正規科目になってからまだ2年程度と歴史が浅く、体育教育の訓練を受けたブータン人教師の絶対数がまだ不足している。以前は高校への派遣が行われていたが、体育の経験が無い生徒が高校から急に始めることは難しいため、今後は小・中学校への派遣に切り替える方針である。

第3章 調査結果（モンゴル）

3-1 巡回指導調査結果

●11月26日(月)

- 19:00頃 モンゴル、ウランバートル着。
小熊、荒井調整員と高松隊員の出迎えを受ける。
- 19:30 ホテルで高松隊員と指導上の問題について対応する。それに伴って隊員受け入れ状況、施設、用具それにカウンターパート、生徒の能力等について報告を受ける。

●11月27日(火)

- 9:30 ウランバートル～エルデネット移動。
- 16:00 オルホン県スポーツ委員会訪問。
副会長ゾレブドルジ氏、
バトミントンカウンターパートのゲレルエルデネ氏、
小熊調整員、アンハ通訳、村松、亀山隊員と共に活動の状況、
委員会が要望している点、今後の対応について意見交換を
する。スポーツを楽しむ若い人口が多いこの地域では今後
共隊員の力を求めているとの事。目標としては近々に国内
チャンピオンになりたい。
- 17:00 亀山隊員のバトミントン指導現場を見学。年齢は13-20才
くらいまでの23名。各技術レベルに分けてローテーション
を多彩に練習を実施、生徒やカウンターパートとの連携も
よく、良い展開を行っている。指導に関しては問題なく順
調との事であった。
- 20:00 エルデネットに赴任している菊地隊員(小学校教諭)と藤原
隊員(家政)、吉武SV(経営管理)と共に各隊員の活動報告を聴
く。特に生活上の問題もなく、現地の人と融和して上手く
いっているとの報告であった。

●11月28日(水)

- 9:30 松村隊員のバレーボール指導現場を見学（男子選抜チーム20

名)。バレーボール協会長ホスパイル氏、同副会長ビャンバドルジ氏の面談。国内大会で優秀な成績を納めた事、ロシア遠征で力をつけた事等、松村隊員の活動を高く評価しており、後任への期待も大きかった。

11:00 第5中学校訪問。

校長ドントル氏、体育主任ジャダンバ氏と面談、以下について調査団より報告し協議を行った。

- ・日本の小中学校の体育(特に発育発達と運動)について
- ・保健衛生と体育について
- ・部活動について

校長より評価の高い隊員活動を学校体育に広げてもらいたいとの理由から体育教師の派遣要請が出たため、調整員より今後検討していきたい旨回答した。

学校は二部授業を実施。学生数が多く、体育は体育館(バスケットコート一面)で一度に150名程度の授業となり、運用に困難が伴うとのことであった。

14:00 エルデネット～ウランバートルへ移動。

●11月29日(木)

10:00 日本大使館表敬訪問。藤本書記官と面談。エルデネットにおける調査の結果報告をするとともに、後述の問題点等について協議を行った。

11:00 国立体育大学訪問。4年生65名の学生を有し、卒業生は体育教師、スポーツコーチ、地域の体育行政等に赴く。久保隊員(バスケットボール)の赴任校。バスケットボールコーチコースを見学後、学科長のダシゲルデル氏と日本の体育大学の現状を混え意見交換をし、各施設を見学、多くの特別な講師もあり、かなりのレベルを有していると考える。

15:30 横綱大学訪問。同校はモンゴル相撲、柔道、空手、レスリング等を中心とした私立選手養成学校であり、森本隊員(柔道)が活動している。柔道は世界レベルの選手を有しており、森本隊員の活動も高い評価を受けている。

18:00 川上隊員(合気道)活動視察。アパートの地下道場、大人のみのおもちゃ道場、カウンターパート、アルタンバガナ氏もレベルが高く活気のある活動をしている。

- 19:00 大槻隊員(空手)活動視察。立派な体育館（バレーボールコート一面）で行っており、8～20才ぐらいの男女が練習。2年間の成果が伺える真剣な道場風景であった。
- 20:00 JICA 事務所主催で所長、調整員、SV、スポーツ隊員(ウランバートルを任地とする5名)に我々を加え反省会を兼ねた懇親会を開催していただいた。

●11月30日(金)

- 10:00 JICA 事務所へ視察報告。松本所長に活動報告と学校への体育隊員派遣について提案を行った。また、現在派遣中のスポーツ隊員がそれぞれの地区限定の展開を求められている現状についても協議を行った。
- 11:00 空港への途中、大津隊員（バレーボール）の視察を試みたが、場所へ行ったものの時間がなく練習は見学できず終わりとなった。しかし国内大会では過日立派な成績を納めたとの報告もあり益々の活躍を期待している。

3-2 体育分野の現況と問題点

(1) 総括

バレーボール、バドミントン、柔道、バスケット、合気道、それに空手とスポーツ分野の隊員であっても多種に分かれており、また配属機関によって活動も大きく異なりを持っており、詳細についての視察は行えなかったのが現状である。しかし与えられた時間内に配属先の長や関係者の言動をまとめると、隊員はよくモンゴル人指導者と連携を保ち、立派な技術伝達をしてくれており、選手、生徒達とも深い信頼で結ばれているとの事であった。そして今後も継続してこれらのスポーツ種目の派遣を要望して行きたいとの事であった。

(2) 体育教育の現状

隊員活動とは直接の繋りはなかったが、学校教育の体育にも触れたいと考え、エルデネット市の第5中学校を訪問させてもらった。同中学校においては、校長及び体育主任と懇談する事ができた。学校の施設用具に問題はあるものの、概ね整備されていると言ってよい。ただし、子供の数が多く二部授業を行わざるを得ないとのことであり、また教員も不足しているため、体育は100名を越える授業を行っているのが現状であるとの

事であった。それゆえに指導要領に基づいた体育授業も困難であり対応策に悩んでいる。

このような設備と教員の不足は、同校に限らず、モンゴル全体において少なからず指摘されている。他の一部の学校では三部授業も行っているとの事であった。

(3) 問題点

一点注意しておきたいのは、現在、派遣されてきた隊員を配属先が独り占めする傾向にあるということである。他のクラブや機関と交流を持ち、広い普及活動や複数隊員が協力して巡回指導を行う事は好まれない状態にあり、実際、バレーボール隊員複数で普及を行ったりワークショップを開いたりすることも考えたが、実現できなかったという状況である。

現在はこのような配属先限定の活動を推進する事もやむを得ないが、今後は、事務所も交えて先方に申し入れを行いながら、徐々に活動範囲を広げていくことが重要であると考えます。

3-3 ボランティア派遣計画

モンゴルのスポーツ分野は、これまで最も多くの協力隊員を派遣してきた分野の一つである。バレーボール、バスケットボール、柔道などは、ナショナルチームの指導の依頼を受けるなど、隊員の活動に対する評価が大変高い。

今後は、これまで派遣実績のある上述の職種や合気道、体操競技に加えて、ハンドボール、エアロビクス、卓球などの新規職種も多岐にわたり要請が提出されており、順次派遣していく予定である。

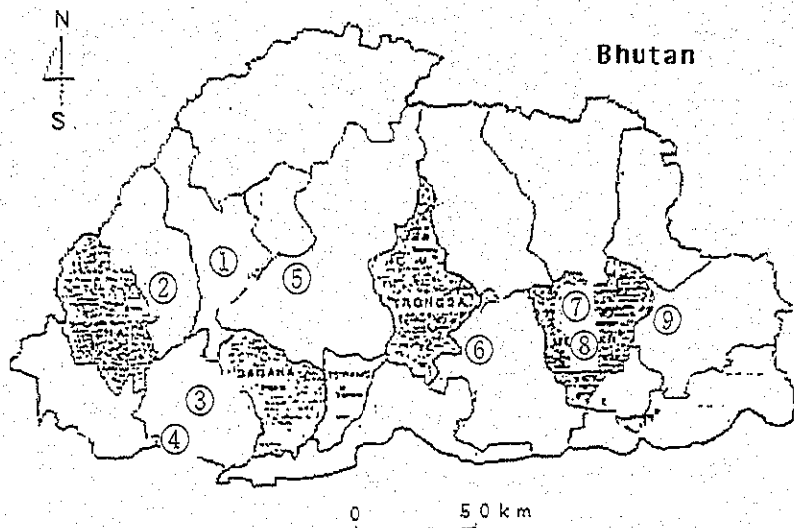
なお派遣地域については、これまでスポーツ隊員の派遣実績があるウランバートル、エルデネット、バガノール以外からも要請が提出されていることから、冒頭でも述べた通り、生活環境及び安全状況が問題ないと判断されれば、他の地方都市に対しても積極的に派遣をすすめていきたい考えである。

巻末資料

1. 隊員配置図（ブータン、平成13年11月1日現在）
2. 隊員配置図（モンゴル、平成13年9月1日現在）
3. 団長作成資料
 - ・初等教育課程における体育科教育の必要性
 - ・課外の体育

ブータン王国 JICA関係者配置図 (平成13年11月1日現在)

取り扱い注意



青年海外協力隊隊員 (31名)

| 派遣地域 | 隊次 | 氏名 | 職種 | 活動期間 |
|-------------------------|-----|------------------|-----------|-------------|
| ① Thimphu (ティンプー) | 17名 | 10/3 笹原 豪 | システムエンジニア | ~05/07/01 |
| | | 11/2 田口 武 | きのこ | ~06/12/01 |
| | | 11/3 加藤 千絵 | 日本語教師 | ~03/04/02 |
| | | 11/3 小池 徹 | 地質調査 | ~03/04/02 |
| | | 11/3 佐藤 夏織 | 図学 | ~03/04/02 |
| | | 11/3 光田 大輔 | システムエンジニア | ~03/04/02 |
| | | 12/2 鶴見 浩典 | 土木設計 | ~04/12/02 |
| | | 12/2 向井 純子 | 建築 | ~04/12/02 |
| | | 12/3 上野 征秀 | システムエンジニア | ~08/04/03 |
| | | 12/3 小林 博行 | 建築 | ~08/04/03 |
| | | 12/3 末兼 賢太郎 | システムエンジニア | ~08/04/03 |
| | | 12/3 山脇 修 | 造園 | ~08/04/03 |
| | | 短緊 磯崎 慎一 | 建築 | ~20/02/02 |
| | | 13/1 末川 協 | 建築 | ~09/07/03 |
| | | 13/1 長尾 幸二 | サッカー | ~09/07/03 |
| | | 13/1 本多 良政 | 建築 | ~09/07/03 |
| | | シニア | 風間 芳春 | システムエンジニア |
| ② Paro (パロ) | 5名 | 11/2 池田 亮治 | 稲作 | ~06/12/01 |
| | | 11/2 神前 知彦 | 在庫管理 | ~06/12/01 |
| | | 11/3 遊佐 貴幸 | 農業機械 | ~03/04/02 |
| | | 12/1 向畑 馨子 | 体育 | ~11/07/02 |
| ④ Phuntsholing (フンツォリン) | 3名 | 11/2 前田 仁 | システムエンジニア | ~06/12/01 |
| | | 12/3 榎田 正史 | 自動車整備 | ~08/04/03 |
| | | 13/1 柄沢 真生 | システムエンジニア | ~09/07/03 |
| ⑤ Bajorhang (バジョタン) | 1名 | 11/3 小田 晃子 | 体育 | ~03/04/02 |
| ⑧ Mongar (モンガル) | 1名 | 11/3 *紺屋 仁 | 臨床検査技師 | ~03/04/02 |
| ⑦ Gyalpozing (ゲルポジン) | 1名 | 11/2 *石山 奈緒 | 体育 | ~06/12/01 |
| ⑥ Zhemgang (シエムガン) | 1名 | 12/1 *清水 一巳 | 体育 | ~11/07/02 |
| ⑨ Khaling (カリン) | 1名 | 13/1 *長谷川 加菜 | 体育 | ~09/07/03 |
| | | Rangjung (ランジュン) | 1名 | 13/1 *宮沢 華子 |

*印 無線設置の隊員宅

事務所職員 (3名)

| 派遣地域 | 氏名 | 職種 | 派遣期間 |
|-------------------|-------|------------------|----------------|
| ① Thimphu (ティンプー) | 3名 | 森 靖之 | 事務所長 ~12/01/03 |
| | 菊池 多絵 | 協力隊調整員 ~28/02/03 | |
| | 野々部 誠 | 協力隊調整員 ~28/02/03 | |

シニア海外ボランティア (7名)

| 派遣地域 | 氏名 | 職種 | 滞在期間 |
|-------------------|----|--------|---------------------|
| ① Thimphu (ティンプー) | 6名 | 佐々木 義修 | 環境教育 ~03/04/03 |
| | | 真田 俊夫 | 建築 ~06/08/03 |
| | | 奈良 昭彦 | 都市計画 ~20/11/03 |
| | | 金子 清智 | 建築 ~20/11/03 |
| | | 近藤 達子 | 環境測定 ~20/11/02 |
| ② Paro (パロ) | 1名 | 葉山 宏幸 | システムエンジニア ~20/11/03 |
| | | 若林 伸夫 | 農業機械 ~20/11/03 |

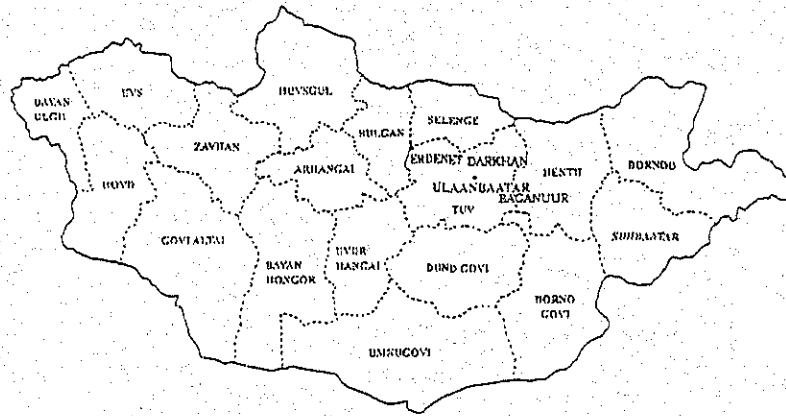
短期・長期専門家 (3名)

| 派遣地域 | 氏名 | 職種 | 派遣期間 |
|-------------------|-------|-----------------|------------------|
| ① Thimphu (ティンプー) | 2名 | 澤登 善誠 | 橋梁設計 ~16/06/02 |
| | 山口 順也 | 線路網計画 ~07/06/03 | |
| ⑨ Khangma (カンマ) | 1名 | 富安 裕一 | 農業総合開発 ~06/03/02 |

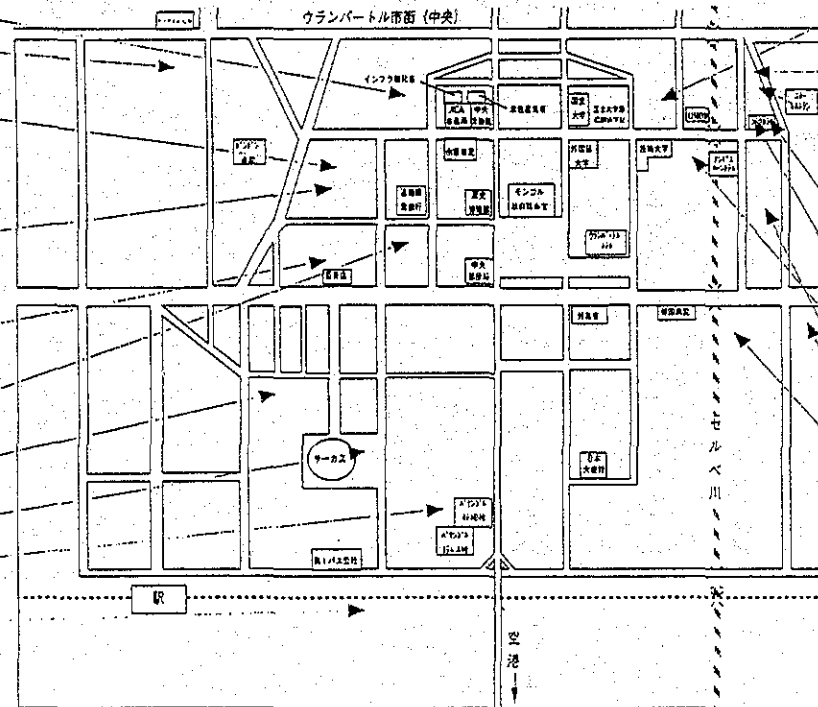
ウランバートル市JOCV隊員配置図

2001年9月11日現在

JICAモンゴル事務所
 JOCV派遣隊員数：45名（男子16名、女子29名）
 JOCV派遣隊員累計：128名（男子60名、女子68名）
 SV派遣隊員数：3名（男子3名、女子0名）
 SV派遣隊員累計：3名（男子3名、女子0名）



- 12/1 広瀬 哲子 視聴覚教育 ~2002.07.13
- 11/2 北 基夫 木工 ~2001.12.09
- 12/3 田中 晶子 建築 ~2003.04.05
- 11/2 小林 俊元 植林 ~2001.12.09
- 12/2 橋本 知佳 日本語教師 ~2002.12.10
- 12/2 大坪 幸子 幼稚園教諭 ~2002.12.10
- 12/1 野中 紀良子 日本語教師 ~2002.07.13
- 12/1 岡 美恵子 日本語教師 ~2002.07.13
- 12/1 大泉 和久 日本語教師 ~2002.07.13
- 12/1 宮原 啓子 幼稚園教諭 ~2002.07.13
- 11/3 川上 雅之 合気道 ~2002.04.06
- 11/3 小名川 玲子 美術 ~2002.04.06
- 11/2 大槻 秀樹 空手 ~2001.12.09
- 12/3 小畑 聡子 縫製 ~2003.04.05
- 11/3 富原 崇之 都市計画 ~2002.04.06
- 12/1 佐藤 美香 日本語教師 ~2002.07.1
- 12/1 奥園 奈津子 日本語教師 ~2002.07.13



- 11/3 久保 健 バスケットボール ~2002.04.06
- 11/3 河野 恵里 森林保護 ~2002.04.06
- 12/3 北須賀 淑絵 放射線技師 ~2003.04.05
- 12/2 林 君彦 デザイン ~2002.12.10
- 11/2 森本 尚増 柔道 ~2001.12.09
- 12/3 大津 和純 バレーボール ~2003.04.05
- 13/1 浦 真由美 養護 ~2003.7.12

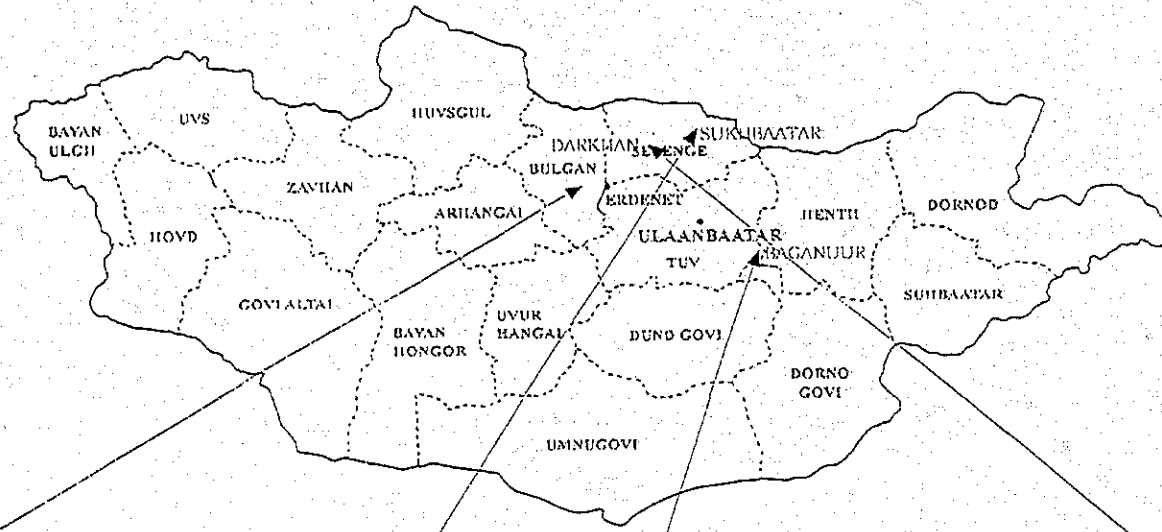
- | | | | |
|------|-------|-------|-------------|
| SV隊員 | 鏡原 信也 | 品質管理 | ~2001.11.16 |
| SV隊員 | 川辺 正人 | ピアノ調律 | ~2001.11.16 |
| SV隊員 | 吉武 紳吾 | 経常管理 | ~2001.11.16 |

- 12/1 高谷 勝也 電子工学 ~2002.07.13
- 12/2 大澤 優子 日本語教師 ~2002.12.10
- 12/2 清水 広美 婦人子供服 ~2002.12.10
- 11/3 高橋 洋子 美容師 ~2002.04.06
- 13/1 佐藤 有美 看護婦 ~2003.7.12
- 12/3 遠田 美穂 幼稚園教諭 ~2003.04.05

地方JOCV隊員配置図

2001年9月1日現在

JICAモンゴル事務所
 JOCV派遣隊員数：45名（男子16名、女子29名）
 JOCV派遣隊員累計：128名（男子60名、女子68名）
 SV派遣隊員数：3名（男子3名、女子0名）
 SV派遣隊員累計：3名（男子3名、女子0名）



11/3 松村 武史 バレーボール ~2002.4.6
 12/2 亀山 明生 バドミントン ~2002.12.10
 13/1 菊池 芳恵 小学校教師 ~2003.7.12
 13/1 藤原 朋子 家政 ~2003.7.12

13/1 久本 芳恵 食品衛生 ~2003.7.12

12/3 高松 秀樹 バレーボール ~2003.04.05

11/2 久良本基晃 機械工学 ~2001.12.09

11/3 森本 大 製菓製パン ~2002.04.06
 11/3 池谷 広美 下工芸 ~2002.04.06
 11/3 照井 吾子 幼稚園教諭 ~2002.04.06

12/1 塚田 史子 日本語教師 ~2002.07.13
 12/1 山田 美絵 家政 ~2002.07.13

12/2 山下 和美 保育士 ~2002.12.10
 12/2 前 直美 歯科技工士 ~2002.12.10
 12/3 船木 恵子 臨床検査技師 ~2003.04.05

初等教育課程における体育科教育の必要性

初等教育は健全な心身の発育発達を助長し、将来立派な社会人として成長し、国づくりに貢献できる人材の基礎づくりを行うものとする。

この目的を達成するためには、発育発達過程を考慮した心身の特徴を把握し、各々に対応すべく、教育刺激が必要とされる。

体育の視点から初等教育課程を見ると、即ち、6才～12才頃は発育発達の変化が著しく、心身共に不安定な要因を多く抱えており、体育刺激の与え方によって児童の健全育成に大きな影響を及ぼすことになる。特に身体については骨格、筋肉、神経それに内臓諸器官等、日々成長しており、適切な運動刺激を与えることは、栄養と共に健全な発育発達には不可欠な条件とされている。

また、心についても親からの離れ、仲間づくり、性へのめざめ等々目まぐるしく変化すると共に知識の獲得も多く、人づくりには大切な時期なのである。

そこで次のように年齢別の心身の特徴を挙げ、運動内容と結びつけてみようとする。

心身の特徴と適正運動

個人差が大きく捉えにくい部分が多いが共通して見られる点を列記してみる。

① 1・2年生

6～8才児の身体的特徴

- ・ 骨格の成長がやや鈍り、筋力がついてくる。
- ・ よい姿勢づくりとなる背筋がついてくる。
- ・ 持久力に欠けている。
- ・ 免疫力がなく感染症になりやすい。
- ・ 全身運動はかなりできるようになるが器用さには欠けている。

6～8才児の心理的・社会的特徴

- ・ 反抗心が起こってくる。
- ・ 少人数単位の仲間づくりができる。
- ・ 体と心の働きがまだ未分化状態にある。
- ・ 感性と創造性に富んでいる。
- ・ 幼児への回帰現象を残している。

6～8才児に対する運動

- ・ ゴッコ遊び
- ・ ぶら下がり（懸垂）、よじ登り、とび越し、くぐり抜け、棒わたり等、全身を使つての遊び
- ・ 模倣運動、物語遊び等、創造力を出させる遊び
- ・ 陣地取り遊び
- ・ かけっこ、物わたしリレー

② 3・4年生

8～10才児の身体的特徴

- ・ 筋肉の発達が著しく、体の調整力も加わり、巧みな運動ができ

るようになる。

- ・ 内臓諸器官もやや強くなり、持久性も備わってくる。
- ・ 背筋力がついてくる時であり、姿勢づくりは重要となる。
- ・ 腕力、脚力も急激について、あらゆる動作の安定力が増す。
- ・ 免疫力はまだ十分備わっていない。

8～10才児の心理的・社会的特徴

- ・ 自己確立ができてくるようになり、集団の一員としての働きができるようになる。
- ・ 物事を理論的に捉えようとする。
- ・ 正義感がでてくる。
- ・ 競争意識が強くなってくる。
- ・ 組織的行為が多くなってくる。

8～10才児に対する運動

- ・ 筋力を強化するための系統的なトレーニングが必要。
- ・ 器具を多用して、器用さを身につけさせる。
- ・ 種々のゲームを行い、ルールを理解させ社会性や協調性を高める。
- ・ 体力を自覚させ運動の必要性を養う。
- ・ スポーツの技術や戦術を考える。

③ 5・6年生

10～12才児の身体的特徴

- ・ 骨格の成長が著しくなりはじめ、骨折や関節障害を起こしやすくなってくる。
- ・ 発達の度合いが釣り合いを失いはじめ、体に不器用さが生じる。
- ・ 性差が著しくなる。
- ・ 疲れやすくなる。
- ・ 運動能力に個人差が出てくる。

10～12才児の心理的・社会的特徴

- ・ 英雄志向が強くなる。

- ・羞恥心が強くなる。
- ・将来への夢を持つようになる。
- ・協調性もでき仲間と上手につき合える。しかし好き、嫌いも明確になる。
- ・感性が育ち、情緒的な行為もできてくる。

10～12才児に対する運動

- ・長時間同じ運動を反復して行わない。
- ・器械運動のような器用さを求める運動は種々の運動内容をローテーション的に扱う方法がよい。
- ・無理に柔軟運動は行わない。
- ・各スポーツにおいては個人の能力に合わせてポジションを決めて責任を持たせ行うとよい。
- ・体力の状態を知るための試し技、試し運動を行うとよい。
- ・男子に格技、女子にダンスを取り入れ、挑戦欲や情緒を養うこと。

④ 6～12才児のまとめ

各年齢に応じた運動領域(保健を含めた)を平成11年(1999年)文部省(文部科学省)の学習要領では以下の表で示している。

| 学年 | 1・2 | 3・4 | 5・6 |
|----|-------|-----|--------|
| 領域 | 基本の運動 | | 体づくり運動 |
| | | | 器械運動 |
| 領域 | ゲーム | | 陸上運動 |
| | | | 水泳 |
| | | | ボール運動 |
| | | | 表現運動 |
| | | | 保健 |

表に示された通り発育発達に合わせ適切な配分が望まれているものであり、その上で量とも言える年間の時間数も定められているのである。この時間数は他の教科目との関係、それに児童に体力的負担をかけ過ぎない事を考慮し、各学年共に体育は年間90時間を定めている。(週3時間として1回の時間は45分間)

⑤ 保健について

体育は健康教育の役割を持っている教科であり、身体の仕組み、疾病、公衆衛生、心のケア性、薬物等々について年齢に応じて適切に正しい知識を提示し、運動実践と合わせて健全な人づくりの内容としなければならないものである。

このねらいに沿った形で発育発達段階に合致した内容を取り扱う事により、体育の教育効果をより一層高められると考えられる。

課外の体育

1. 集団行動

体育は身体運動を伴った授業展開であるため、集団と個人の安全を常に確約していなければならないのである。為に素早い人員の掌握、規律のとれた行動、約束を守ること等ができるようにすることが求められてくる。具体的に数列を挙げると、正しい姿勢がとれる、整列ができる、一斉に方向変換ができる、整列したまま移動ができる等である。これらの基本動作を身につけることによって、効果的で安全な授業運営ができることは勿論であるが、児童個々人の自己確立にも役立つものとする。

2. 学内行事（運動会）

全校生徒の交流の場となり、日頃の授業では体験できない学習ができる。クラス、学年の枠を越えての児童の交流、運動会に備えての準備や練習経験は大きな教育効果を有しているものである。また父兄、地域住民に学校との接点を提供し、関心を高めるものである。

勿論身体運動を通しての会であるため、身体的効果も十分期待されるものである。

3. 野外活動（遠足、林間学校）

校外に出て身体を鍛錬することをねらいとした時は宿泊を伴い、独立心を養うこともねらいとして行われるものである。いずれも慣れ親しんだ学校とは異なった場所で過ごすことになるため、従来とは異なった種々の体験をすることになる。加えて仲間との協調性をも学び、更に身体的には目標に向かって挑戦をし、克服することによって体力に自信をつけさせる経験をもすることになる。この意味からしても児童期においては大切な教育活動であるとする。

JICA